

検証・浦和電車区事件の真実 No.23

民主化闘争情報 [号外] 2008年6月11日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第23回 脱退しても職場の脅しが続く！

Y氏(当該事件被害者)は2001年2月28日にJR東労組を脱退させられ、被告の上原分会長から、これからも職場で追及していくので覚悟するように、と告げられた。

分会長の予告が現実！

Y氏は、「脱退届」を書かされた翌3月1日から4日までは休みを取り、3月5日から勤務に就いたが、職場では分会役員らと顔を合わせないようにしていた。脱退してもいつ脅しを受けるかも知れないと、不安と緊張の連続だった。5日と6日は平穏だったが、7日の勤務終了後に分会長の予告は現実となった。この日は朝から15時過ぎまでの勤務だったが、勤務終了後、浦和電車区2階通路で大澗被告と斉藤被告が待ち伏せていた。Y氏は「またやられる」と思い、念のためICレコーダーのスイッチを入れ、急いで通り過ぎようとしたが、大澗被告に「座れってんだよ！」と、ドスをきかせた声で呼び止められた。Y氏は逃げればもっと酷い目に遭うと思い、仕方なく、大澗に命令されるまま椅子に座った。

てめえが職場にいるってことは気分悪いんだよ！

大澗は「嘘つくんじゃねえ。俺は許せるどころじゃねえぞ！もっと怒りが湧いているんだからな！おまえ、組合途中で辞める意味わかんねえか。それだったら本当にやるぞ！ここにいること自体おかしいと思わないか！」「組合が勝ち取ったものを返せよ。窃盗だぞおまえ、おまえ盗人じゃねえかよ！窃盗だろう、泥棒だぞ！」などとY氏に怒鳴った。

そして、Y氏が浦和電車区に着任した際、Y氏を担当する教導運転士(見習を教育する運転士)に上原分会長が就いたことについて、昨年末に不満を言ったことを蒸し返し、「文句があるなら区長に言え！区長のところへ行っってこいよ！早く行け、おまえ！」としつこく迫り、Y氏はわざわざ区長室まで連れて行かれた。I区長は幸い不在だったが、職場責任者である区長が平気で脅しのネタにされるほど、当時の職制は乱れていたといえる。

さらに大澗は、「俺は昔、おかげで13日間ぶち込まれてよお、9年間裁判やっているんだぞ俺は！そういうのはよ、嫌というほど知ってからよお。上尾警察署にぶち込まれてよお、1年間停職食らってよお、9年間裁判やったんだよ、おまえなんかの比じゃないんだよ！」などと自分の経験を自慢げに誇示して執拗に恫喝した。

そして「このままてめえが職場にいるってことは気分悪いんだよ！そういうのが職場にいるってのはおかしいじゃねえの！」「このようなことは、おまえが職場にいる限り続けていくからな！」「おまえか俺かどっちかがいなくなるまで続く話だからよ！そういう種を蒔いたのはおまえなんだからよ！」と明らかに退職を迫る恫喝を執拗に繰り返した。斉藤被告は「ちいせえ野郎だな、おまえ」などと大澗の怒声に合いの手を入れていた。

Y氏は悔しくて耐えるしかなかった。この日の脅しは1時間半に及んだ。(次号に続く)